

大豆情報第3号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

本年の7月1日～8月14日の気象は、平年に比べ平均気温は2.7℃高く、降水量は87%と少なく（7月下旬以降0mm）、日照時間は124%と多い状況でした。播種は、7月6日頃から始まり、21日頃から本格的に行われましたが、降雨後に播種したほ場の一部で、出芽不良による播き直しが行われました。7月下旬以降、高温乾燥状態が続き、全体的に生育はやや抑制されています。

今後は以下のことに留意して栽培管理を行ってください。

1 排水対策および施肥

8月8日発表の1か月予報は下表のとおりです。

晴れの日が多い予報となっており、**暗渠栓を閉め、地下水位を高く維持するなど**乾燥害軽減を行いましょ。

降雨が続いた場合は、湿害防止のため、中耕・培土でできた溝と排水口を確実につないで、早めに地表水の排水を行うとともに、本暗渠の栓を開けて地下排水を回らしましょ。

また、開花期前で生育量が少ない場合や湿害が発生しているほ場では、硫安10kg/10a(窒素2kg/10a程度)を追肥することにより生育を回復させることができます。

福岡管区气象台1か月予報

(1週目) 8/10～16	(2週目) 8/17～23	(3～4週目) 8/24～9/6
期間の前半は高気圧に覆われやすいため晴れる所が多いですが、後半は湿った空気の影響で雲が広がりやすい所もあるでしょう。	高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

2 雑草防除

現在、雑草の発生が多くみられる場合は、中期除草剤による防除が必要です。特にアサガオ類は、蔓化する前の防除が重要です。

【イネ科雑草】

ポルトフロアブル（200～300ml/10aを水100ℓ、収穫30日前まで）

【タデ科雑草、アメリカセンダングサおよびアサガオ類】

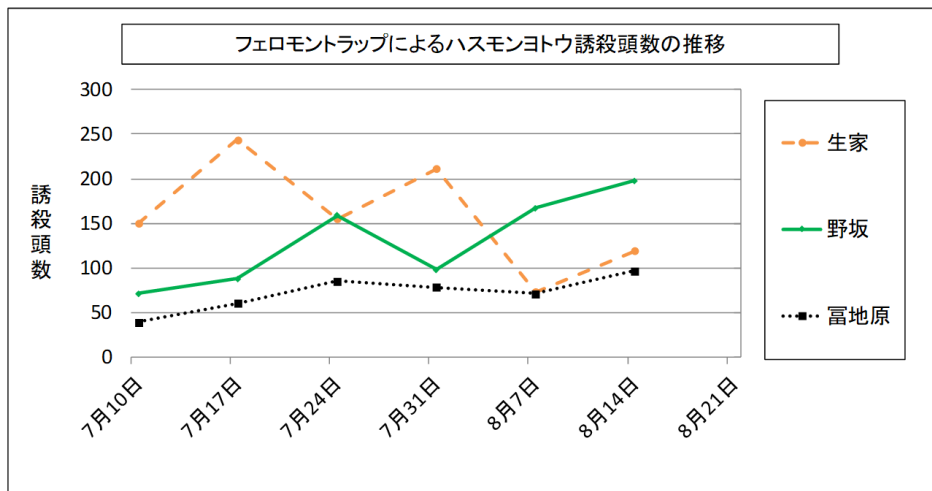
大豆バサグラン液剤（100～150ml/10aを水100ℓ、開花前まで）

【ホソアオゲイトウ、ホオズキ等の広葉雑草およびアサガオ類】

アタックショット乳剤（30～50ml/10aを水100ℓ、開花前まで）

3 ハスモンヨトウ

8月14日のフェロモントラップの誘殺数は、昨年の同時期とほぼ同じ状況です。今後の発生は地域やほ場で異なるため、白変葉や虫の発生状況を確認しながら防除を実施してください。



☆ハスモンヨトウ防除（白変葉が5株/aを超えるほ場）

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	使用量 (10a 当たり)
液剤	プレオフロアブル (1,000~2,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100ℓ
粉剤	トレボン粉剤 DL	ハスモンヨトウ、 カメムシ類	収穫14日前まで	4kg

※液剤の場合、カメムシ類が多いほ場は、トレボン乳剤（1000倍）を混用してください。

【白変葉】



【ハスモンヨトウ幼虫】



★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳